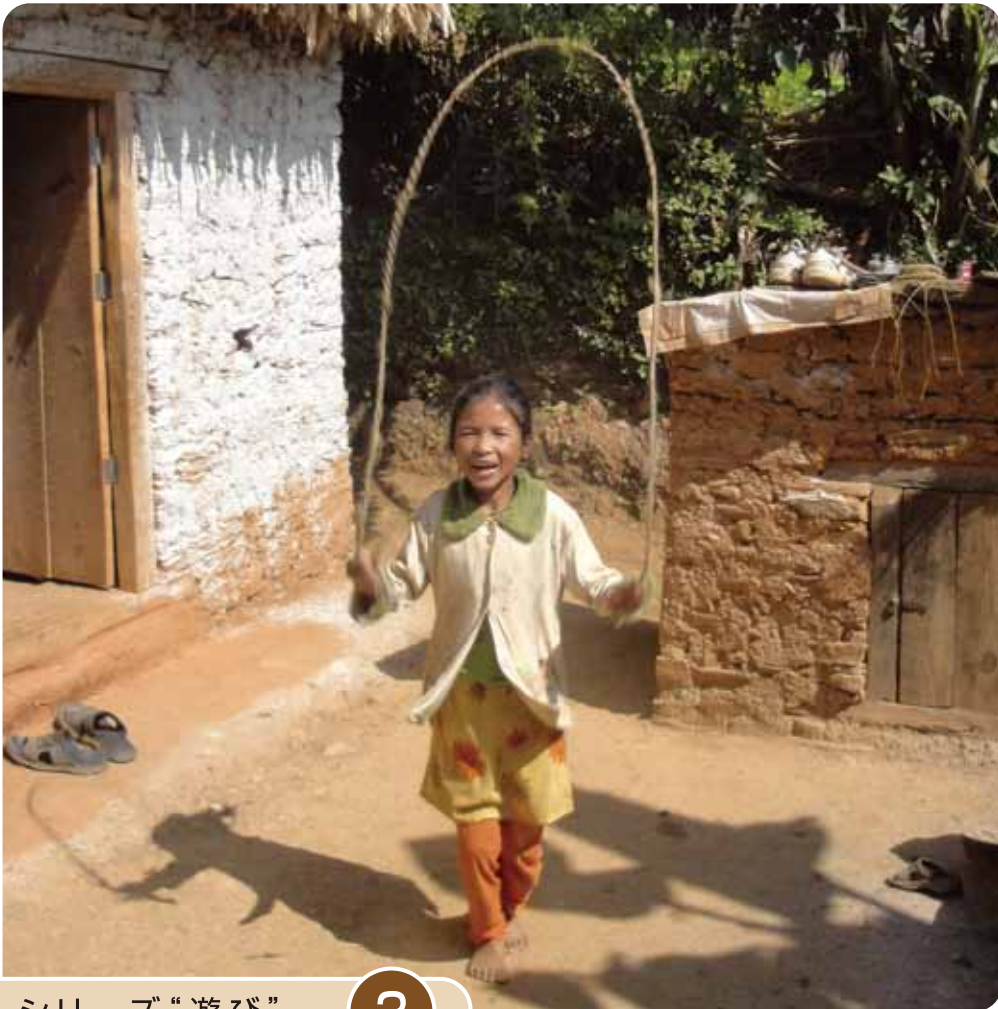


チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2012年11月NO.29

# SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“遊び”

3

**なわとび** 「なわ」が一本あれば遊ぶことができるなわとび。ネパールの子どもたちは荷造りなどに使われる麻なわで遊んでいます。何回とべるかな？

写真:ネパール ラメチャップ郡

**ChildFund**  
Japan

特集

スポンサーさんに支えられて  
～スリランカ、海辺のチャイルドの暮らし～

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

チャイルド・ファンド・ジャパンは2006年より、チャイルド・ファンド・スリランカと協働してスポンサーシップ・プログラムを実施しています。現在はプッタラムとティー・プランテーション、2カ所の支援地域で、約350名のチャイルドたちを日本のスポンサーの皆様がご支援くださっています。今号ではプッタラムに暮らすチャイルドをご紹介します。



## 金曜日が待ち遠しい

チャイルドのマルシャは金曜日をとても楽しみにしています。

お母さんが3,300km離れた中東のドバイ\*1から電話をかけてくる日だからです。ほんの短い時間しか話せませんが、お母さんの声を聞くとマルシャの心は満たされます。マルシャのお母さんはマルシャがほんの6歳のときに、家政婦としてドバイに出稼ぎ\*2に行ったのです。

「お母さんがいなくて寂しい……。もう7年以上も会ってないもの。」ココナツの木陰に座ってマルシャは話を始め

ました。まわりにはココナツの木が沢山生えていて、風が吹き抜けると少し涼しくなります。お母さんの写真を誇らしげに見せながらも、「お母さんは写真と声でしか知らない。」とマルシャは言います。13歳のマルシャにとって、なぜ母親が海外に出稼ぎに行かなくてはならないかを理解することはできませんが、寂しさを隠すことはできません。



お母さんへの想いを話すマルシャ。左はお祖母さん。

\*1 アラブ首長国連邦を構成する首長国の一つ。多くの海外出稼ぎ労働者を受け入れています。

\*2 スリランカでは2010年、労働力人口の約1/4に当たる190万人が海外で就労しています。(CBSL, 2011) スリランカばかりでなく、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているフィリピン、ネパールでも海外への出稼ぎが盛んです。親が海外出稼ぎに行き家庭崩壊が起こることもあります。

## マルシャの家族

マルシャが暮らす海辺の村は、砂地でとても暑く、湿気の多い地域にあります。マルシャのお父さんは漁師として1年のうち9カ月は仲間と一緒に魚を追ってスリランカの西海岸を移動しています。マルシャと暮らせるのはたったの3カ月だけです。そのため、マルシャは母方の祖父母と一緒に暮らしています。両親に代わって祖父母は孫のマルシャを愛情をもって世話しています。家は、ココナツの葉を編んだものでできて



優しい祖父母と

# ～スリランカ、海辺のチャイルドの暮らし～



↓います。きちんとしています、とても小さい家です。漁師であるお父さんの収入は少なく不安定です。お母さんは収入を得ようと地域で仕事を探しましたが、どうしても見つからずドバイに出稼ぎに行かざるを得ませんでした。ドバイからの送金とお父さんの収入と合わせて、ようやく一家の食糧や必要な生活用品を賄っている状態です。

◀マルシャが暮らす家(右)

## 学校に通える毎日

両親の収入だけでは学校を続けることが難しかったマルシャは、2007年からチャイルド・ファンド・スリランカを通して日本のスポンサーさんからの支援を受けることになり、安心して学校に通うことができるようになりました。今、7年生\*3のマルシャは、1時半に学校が終わると、支援センターが実施している補習クラスに参加します。マルシャは地域に設置されたセンターへ行き、友だちとキャロム\*4をしたり、バレーボールをして遊びます。センターにある図書室で宿題の調べ物をすることもあります。



チャイルドたちが通う学校

「学校では、絵を描くことと、算数は好きだけど、理科と英語が苦手です。補習クラスに入ったら、学校で分らなかったところも、分かりやすく教えてくれました。毎週水曜日の放課後と土曜日と日曜日に3時間ずつ勉強しています。」と、嬉しそうにマルシャは話してくれました。将来の夢について尋ねると、マルシャは真剣な表情になりました。「将来は看護師になりたいと思っています。村の病気の子どもたちを助けたいからです。」

\*3 スリランカは1年生から9年生までが義務教育。その後13年生までチャイルドは支援されます。

\*4 スリランカで人気があるゲーム。正方形の板においた駒を弾いて他の駒を四隅から落として勝負します。

## もう一人の大切な人

マルシャには、お母さんのような人がもう一人います。スポンサーのミヤシタさんです。「私はミヤシタさんのことをケイコおばさんと呼んでいるの!」とマルシャは興奮して話してくれました。「ミヤシタさんは、いつも私を励ましてくださるんです。寂しいとき、辛いことや嫌なことがあるとき、ミヤシタさんのお手紙を読み返すと、元気になります。ケイコおばさんからのご支援と励ましがなかったら、くじけてしまって勉強を続けることが難しかったらと思います。とても感謝しています。」ミヤシタさんのご支援やお手紙によってマルシャは、自らの将来の可能性に向かって一生懸命がんばることができるのです。

「いつも私を励ましてくれます。」ミヤシタさんからのお手紙を見せてくれるマルシャ▶



## スリランカはどんな国？

スリランカは1972年まではセイロンと呼ばれ、インド洋の真珠とうたわれている、美しい小さな島国です。北西にはインド、南西には日本人にも人気のあるモルディブがあります。面積は、北海道の約8割の約65,000km<sup>2</sup>、人口は約2,000万人で、その7割がシンハラ人、2割がタミル人です。公用語はシンハラ語、タミル語、英語が使われています。主な生産物は、紅茶、宝石、ココナツ、シナモン(世界の4/5を生産)。首都はスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ。

## プッタラムは？

元的首都、コロンボの北方約80kmのところにはプッタラムがあります。プッタラムは乾燥地帯に位置しており、人々の多くは農業と漁業に従事しています。プッタラムは、ココナツと塩の生産でも有名です。ココナツではスリランカ第二位の生産量で、塩についても主要な生産地です。降雨量が少ないことが水不足をもたらし、衛生問題や農作物の不作につながっています。また、親が出稼ぎで家にいないことから起因する、子どもの心理面に関する様々な問題もあります。



塩田が続く風景



乾燥しているプッタラム地域

## スポンサーシップ・プログラムを実施している団体

プッタラム地域でプログラムを実施しているのは、チャイルド・ファンド・スリランカのパートナー団体のVOICE (Voluntary Initiatives for Child Empowerment: 子どもの成長のための自発的取り組み) という住民組織です。VOICEには約3,500名のメンバーがおり、3つの分野のプロジェクトを実施しています。

### 1 幼児の発達プロジェクト

3-5歳の幼児期の子どもたちのために、子どもの安全と健康を促進するため、デイケアセンターを中心とした活動を実施しています。

### 2 学齢期の子どもたちの教育と成長プロジェクト

地域の問題として中等教育になると6割近くが中退し、さらに5割近い子どもたちが進級試験に不合格になる状況があります。学校設備の修繕や設置、教員を対象とした「子どもに優しい教育方法」の研修、子どもたちに学用品の支給、補習クラスなどをおこないます。

### 3 青年対象の生計手段を得る技術・リーダー研修プロジェクト

技術を身につける機会がなかったために仕事がなく、非行に陥ってしまいがちな青年たちのために技術訓練を行い、仕事に就けるよう支援します。生活技能習得に重点をおき、青年たちが地域の生活改善のために働けるように指導します。

取材したアイリーン・サンチャゴ\*とマルシャ(右)。チャイルドと一緒に成長するように願って植樹された「スポンサーの木」の前で。

\*フィリピン事務所内に2005年に設置された連絡調整事務所に席を置き、主にネパール、スリランカの支援事業の事業・会計監査、研修を担当しています。



## 長洞地域公民館の建設支援



引渡し式での除幕。右から足立徳朗公民館長、戸田公明市長、小林毅事務局長。



お披露目会で、大船渡特産のサンマや軽食を味わいながら歓談する参加者の皆さん

られました。初めて公民館の中に入った住民の方々は、「広くて立派で素晴らしい公民館だ」と喜んでくださいました。

長洞地域公民館は、地域の方々の話し合い、お茶の会、食事会など、様々な場面で活用されます。復興へ向けて人々が「支え合い」、「つながる」拠点となります。

約800人が避難生活する長洞仮設住宅団地(岩手県大船渡市)には集会室があります。しかし、収容可能人数は40人ほどと小さく、台所も食事会などの準備の際には手狭になっていました。

仮設住宅団地のコミュニティ形成を支援するチャイルド・ファンド・ジャパンは、自治会からの要請に応じて、仮設地域公民館の建設を支援し、大船渡市に寄贈しました。建物は軽量鉄骨造りの平屋建て、延べ床面積は200平方メートルです。80人を収容できる広間や大きな台所が整備されています。

好天に恵まれた10月12日(金)、戸田公明市長もご出席ください、引渡し式を行いました。足立徳朗公民館長は、挨拶の中で、チャイルド・ファンド・ジャパンや大船渡市への感謝を述べつつ、地域を結びつける場として公民館を積極的に活用していくと意気込みを表明しました。

また、10月21日(日)には仮設住宅団地の皆さんへのお披露目会が開かれました。完成したばかりの台所で軽食が準備され、賑やかな歓談の場が設け



公民館建設支援などへのお礼のため、戸田公明大船渡市長(右)が東京都杉並区の事務所を来訪してくださいました。(左は深町正信理事長)

## 大船渡保育園での子どものこころのケア

「子どものこころのケア」では、保護者や保育士を対象として臨床心理士による個別相談や講習会を行っています。子どもに接する大人が子どものこころの状態を知り、適切な対応ができるよう、サポートすることを目的としています。ルーテル学院大学と協働し、岩手県大船渡市では9月までに7回の個別相談を実施しました。

保育園で元気に遊んでいる子どもたちの様子を見ると、東日本大震災の影響は残っていないかのように見えます。しかし、保護者を対象に個別相談を実施したところ、「家に帰ると子どもが親から離れたがらない」、「暗いところを極度に怖がる」、「夜泣きが激しい」という相談が多く寄せられ、子どもたちのこころの傷が癒えていないことが改めて認識されました。保育士たち



保育園で楽しそうに遊ぶ子どもたち



保育士どうしの情報交換も欠かせない

からは、一人ひとりの様子をさらに注意深く見守り、これまで以上に保護者と情報を交換するようになった、との声が聞かれます。

こころに深い傷を負った人が、それを表現できるようになるまでには時間が必要です。今回の震災においても、こころのケアが重要になってくるのはこれからだと言われています。チャイルド・ファンド・ジャパンが行う「子どものこころのケア」は、年内でその活動を終えますが、引き続き、保育士や保護者の方たちを少しでもサポートできるよう、最後のプログラムに向けて調整を進めています。

# フィリピンからクムスタ

vol.3



## クリスマスカードに込められた思い

クムスタ:フィリピン語で「こんにちは」

12月にフィリピンのチャイルドたちからスポンサーの皆様へ届けられるクリスマスカード。いつ頃、どのように作られているのでしょうか？

クリスマスカード作りは、フィリピンの年度初めの6月から準備が始まります。スポンサーさんのことを考えながら、チャイルドたちが一生懸命地域の花や葉、鳥の羽などを集め、押し花にしたり、素材を準備します。それらを使い、8月中頃から、センターで“クリスマスカード作り”が始まります。

センターが支給する厚紙、色鉛筆やクレヨンを使ってデザインを考えたり色を塗ったりします。絵の上手なチャイルドが他のチャイルドを手伝うこともあります。

メッセージが思いつかないチャイルドには、センターのスタッフが言葉を引き出す手伝いをします。「スポンサーさんにどんなことを伝えたい？ クリスマスってどんなこと？」季節にふさわしい詩を写す子もいます。

細かい仕上げをしてカード完成！ 工夫を凝らしたカードがスポンサーの方に届くのを想像する瞬間です。

色を合わせたり、素材を切ったりする細やかな作業に喜びを見出すクリスマスカード作りは、チャイルドたちにとって心を豊かにする大切なセンター活動です。親たちにとっても、自分の子どもの才能を再発見する機会です。

チャイルドたちは感謝の思いを精一杯クリスマスカードに込め、スポンサーさんとの絆を再確認するのです。



地域にある素材やリサイクルペーパーを工夫して作られるクリスマスカード



表現力はチャイルドによって違いがありますが、感謝を伝えたいという気持ちは変わりません。チャイルドたちの成長をどうぞ温かく見守ってください。

# ネパールからナマステ!

vol.9



## 生活必需品？ ネパールの携帯電話事情

ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

このところチャイルドからの手紙に携帯電話の話が出てくることがあります。チャイルドたちが暮らすラメチャップ郡では携帯電話が広く普及しているのでしょうか？

ラメチャップ郡は、首都カトマンズからバスで10時間かかる山間地で、固定電話は集落に1台あるかないかです。しかし、尾根には携帯電話用の電波塔(基地局)が立ち、携帯電話が使えます。携帯電話は、固定電話に比べて設備投資額が小さいこともあり、電波塔の整備が進み、ネパールの僻地でも通話が可能な地域が増えていきます。



「そっちの調子はどう？」遠方の親族と話をしているチャイルドの親

日本には、手紙、ファックス、電子メールなど、文字を利用する通信手段もあります。しかし、ラメチャップ郡の「文字の読み書きができない\*」人々にとっては「音声」による携帯電話が唯一の通信手段なのです。

気になる価格ですが、携帯電話のセットは2,000ルピー(約1,800円)ほど。通話料は1分1ルピー(1円弱)です。日雇い労働者の日当が約400ルピーなので、チャイルドの家族にとっては、確かに安くはありません。しかし、それはカトマンズや海外に出稼ぎに行く親と、残された家族をつなぐ唯一の細い紐なのです。

\* ラメチャップ郡の識字率は、男性53.4%、女性26.4% (2001年国勢調査)



ランブール村にある電波塔

## 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

- 【フィリピン】  
・子どもが読書に親しむプロジェクト
- 【ネパール】  
▶ 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

- 協力期間：2011年4月1日～2016年3月31日
- 支援対象：ラメチャップ郡の3カ村の公立16校(小学校と中学校)に通う生徒(約2,800人)と保護者、教員(103人)、学校運営委員会のメンバー(152人)、PTAのメンバー(151人)
- 協力団体：RBPW (Ramechhap Business & Professional Women)  
\* ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。

今年度、ラメチャップ郡ラメチャップ村のブメタン小学校に1棟2教室、スカジョール村のセティデビ小学校に1棟3教室の建設支援をしています。2校とも年内には完成の予定です。他の学校でも、教室の補修、校庭の整備、飲料水タンクの建設などを実施しています。

このプロジェクトの活動の一つとして、4つの小学校の幼稚部と低学年教室にカーペット、座布団と机を支援しました。子どもたちは身の丈に合わない机を使っていましたが、これからはサンダルを脱いで、清潔なカーペットと座布団に座って勉強できるようになります。お遊戯やゲームなども、机を隅に寄せて教室を広くし、皆でのびのび遊べるようなやさしい教室になりました。



壁の石積みが進むセティデビ小学校



使いやすい教室で皆うれしそう。(リャンリャン小学校)

## 世界の子どもたちの思いを知る



チャイルド・ファンド・ジャパンが加盟するチャイルド・ファンド・アライアンスは、「Small Voices, Big Dreams=小さな声、大きな夢」と題して、子どもたちの「率直な思い」を知るための調査を行っています。第3回目となる今年度の調査には、47カ国(36の発展途上国と日本を含む11の先進国)、10歳から12歳の6,204人の子どもたちが参加しました。

子どもたちが回答したのは、以下の6つの質問です。

調査に協力してくれた12歳のチャンドラ。(ネパール)

- 1 もしも国のリーダーだったら、子どもの環境を良くするために何をする?
- 2 普段の生活の中で、一番「こわい」ものは何?
- 3 将来、好きなものになれるとしたら何になりたい?
- 4 環境問題で一番心配なことは?
- 5 自然災害を経験した事はある?
- 6 何か一つだけ、環境を変えることができるとしたら、何をする?



日本からは東京都杉並区にある公立小学校6年生77名が参加しました。同じ年代の子どもたちですが、国によって回答内容は様々です。例えば、「こわいものは何?」という質問に対して、日本の子どもの回答で一番多かったのは「不審者」でしたが、ネパールでは「トラ」でした。それぞれの国の特徴が反映された結果となり、調査報告からたくさんの「率直な思い」を知ることができます。

調査報告書(英語)は、「世界子どもの日」である11月20日\*に、アライアンスに加盟する12団体から一斉に発表され、チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページからもダウンロードできます。是非ご覧ください! なお、日本語訳に関しては事務局にお問い合わせください。

\* 1954年、国連総会により11月20日が世界こどもの日(Universal Children's Day)と制定されました。

増員キャンペーン展開中

# チャイルドにとって大切な人

今号の特集ではスリランカで暮らす13歳のチャイルド、マルシャをご紹介します。母親と離れて暮らすマルシャは、日本のスポンサーさんを母親のように慕っています。支援を受けるチャイルドは、経済的な面だけではなく、スポンサーの皆様にも支えられています。

しかし、マルシャのようにスポンサーさんに支えられている子どもは、一部に過ぎません。フィリピン、ネパール、スリランカで、500人の子どもたちがスポンサーさんに出会える日を待っています。

一人でも多くの子どもが学校を続けられるように、もう1名、チャイルドをご支援くださいませませんか？

お申し込みは事務局、募金グループまで。

【電話】03-3399-8123

【メール】[chidfund@childfund.or.jp](mailto:chidfund@childfund.or.jp)

ホームページからもお申し込みいただけます。

<http://www.childfund.or.jp/>



## インフォメーション コーナー

### お知らせ チャイルドの成長記録とクリスマスカードをお届けします！

チャイルドたちの1年間の成長を示す「成長記録」をお届けしています。ネパールのチャイルドたちの記録は7-8月にお送りしましたが、フィリピンのチャイルドの記録は11月中に、スリランカのチャイルドの記録はそれ以降に順次お届けいたします。また、12月にはフィリピンのチャイルドたちから手作りのクリスマスカードが届きます。スリランカのチャイルドたちからも季節のごあいさつ状を、そしてネパールのチャイルドたちからはネパール暦の新年である4月に新年のカードをお届けする予定です。どうぞお楽しみに！

### お知らせ 領収証の送付について

2012年にご寄付いただいた分の領収証を2013年1月中旬頃に発行いたします。(ご寄付ごとに領収証をお送りしている分を除きます。)この領収証は確定申告の際に所得税の寄付金控除に使用していただくことができます。なお、東京都にお住まいの支援者の皆さまからのご寄付は、住民税に対しても寄付金控除の対象となります。

詳しくは東京都主税局ホームページをご覧ください。

<http://www.tax.metro.tokyo.jp/>

### お願い 1日1クリックで1円の寄付になります！

クリック募金は1回のクリックが1円の寄付となり、株式会社カカコム様よりクリック数分の金額がチャイルド・ファンド・ジャパンへ寄付されます。皆様の1日1回のクリックが大きなご支援となり、貧困の中で暮らす子どもたちの明るい未来へとつながります。是非ご家族やご友人の皆様にもご紹介ください！



<http://kakaku.com/donation/>

ChildFund Japan

### Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

### ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

### ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

### チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ  
<チャイルド・ファンドだより SMILES> 2012年11月発行  
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン  
理事長 深町正信 事務局長 小林毅  
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730  
E-mail: [chidfund@childfund.or.jp](mailto:chidfund@childfund.or.jp)  
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

(デザイン)  
モテデザイン研究所  
(印刷)  
有限会社東西印刷

